

福祉環境委員会記録

令和6年5月16日（木）
10時01分～11時58分
全員協議会室

【委員】三浦委員長、肥後副委員長、

柳楽委員、串崎委員、上野委員、布施委員、川神委員

【議長・委員外議員】笹田議長、芦谷議員

【執行部】

〔健康福祉部〕久保健康福祉部長、棕木健康医療対策課長、

河上健康医療対策課地域医療担当課長、龍河子ども・子育て支援課長、

小林子ども・子育て支援課子育て世代包括支援担当課長、

小林保険年金課長

〔市民生活部〕井上市民生活部長、小松環境課長、斗光カーボンニュートラル推進室長、

鈴木総合窓口課長、川合税務課長、齋藤資産税課長

【事務局】久保田書記

議題

1 執行部報告事項

- (1) 令和7年度国県重点要望事項について 【健康医療対策課】
- (2) 高齢者人口等の推移について 【健康医療対策課】
- (3) 島根大学医学部医学科『地域枠』及び市内看護学校卒業生・入学生の状況について 【健康医療対策課】
- (4) 令和6年度浜田市国保診療所の医師体制について 【健康医療対策課】
- (5) 令和6年度幼児教育・保育施設の変更点と未就学児童の状況について 【子ども・子育て支援課】
- (6) 放課後児童クラブの入会状況について 【子ども・子育て支援課】
- (7) 1歳児に対する相談支援事業の実施について 【子ども・子育て支援課】
- (8) 令和6年度浜田市国民健康保険料率について 【保険年金課】
- (9) (仮称)益田匹見風力発電事業に係る環境影響評価書の縦覧について 【環境課】

- (10) 令和5年度ごみの排出量等について 【環境課】
- (11) 浜田市と Terra Charge 株式会社との持続可能な地域づくりに関する包括連携協定書の締結について 【カーボンニュートラル推進室長】
- (12) 本庁支所間におけるオンライン窓口の試験的導入について 【総合窓口課】
- (13) 令和6年度軽自動車税(種別割)の当初賦課状況等について 【税務課】
- (14) 令和6年度固定資産税の当初賦課状況等について 【資産税課】
- (15) その他
(配布物)
 - ・令和6年度子育て支援ガイド 【子ども・子育て支援課】

2 その他

3 取組課題について (委員間で協議)

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[10 時 01 分 開議]

○三浦委員長

ただいまから福祉環境委員会を開会する。出席委員は7名で定足数に達している。

1 執行部報告事項

(1) 令和7年度国県重点要望事項について

○三浦委員長

健康福祉部長。

○健康福祉部長

(以下、資料を基に説明)

○三浦委員長

委員から質疑はあるか。

○柳楽委員

今回、浜田医療センターについても要望されているが、ここに上がってないもので気になっていることがある。医療従事者と併せて介護人材の確保も今すごく問題になっていると思うが、今回要望にも上がってない。今の時点では介護人材確保については、県や国に要望する状況ではないという判断なのか。

○健康福祉部長

ご指摘の内容も大変重要な課題で、島根県でも様々予算化しており、市や広域行政組合含めて取り組んでいる。ただ、要望したいことはたくさんあるのだがある程度絞るようと言われており、特に重要な項目についてということで今回はこの形で要望している。

○柳楽委員

状況は分かった。重点要望という形ではなく、様々な形で県などに要望されると思うので、そういったところでは言ってもらっているということか。

○健康福祉部長

そのとおりである。

○串崎委員

特別交付税措置を働きかけてお願いしているとのことだが、これがもう少しいけばどのくらい交付税をいただけるのか。

○健康福祉部長

特別交付税の所管が総務省と、実際に対象になっているのが厚労省ということで、働き掛けをどのような形で行うかは県と相談しながらという話ではある。実際どの程度の対象になるのかは内容を精査する必要があるため、現時点で額は報告しかねる。

○三浦委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(2) 高齢者人口等の推移について

○三浦委員長

健康医療対策課長。

○健康医療対策課長

(以下、資料を基に説明)

○三浦委員長

委員から質疑はあるか。

○串崎委員

弥栄の高齢化率51.29%で、旭と金城が44.45%。右側の一番上の要介護の認定推移だが、弥栄27.9%は高齢化率も高いのでそうだろうと思うが、旭も28.64%と高い。これはどのように分析されているか。

○健康医療対策課長

弥栄と旭地域は人口規模が小さい。その中で特別養護老人ホームや養護老人ホームなどの入所施設があるために要支援者が多いことから、認定率が高くなっていると考えている。

また、弥栄と旭は前期高齢者に比べて後期高齢者の割合が高いことから、やはり認定率が高くなっている。

○串崎委員

旭はあさひ社会復帰促進センター（以下、復帰センター）の若い方が入っているので44.15%で収まっているのだと思う。それを抜けば50%近い高齢化率になるのではないか。したがって旭の28.64%の認定率は多いのではないかと思うのだが、それは間違いか。

○健康医療対策課長

認定率については、若者人口は含めず高齢者人口を割ったものなので、復帰センターのことは関与していない。

○串崎委員

復帰センターの方を抜けば、高齢化率が弥栄と同じように50%程度になるのでは。そうすると先ほどの28.64%の認定率がそのような形で収まるのかと思った。それはどうか。

○健康医療対策課長

高齢化率は委員の言われるように、若者も含めて全人口に案分する65歳以上の割合なので、復帰センターがあることで旭の高齢化率が低くなっているものと思われる。介護認定率については、65歳以上の人口に対する介護認定者の割合になるので、それは復帰センターの若者は関与していない。

○柳楽委員

要介護5、4と、要支援の2というのは増加しているが、何か要因として上げられる

のか。

○健康医療対策課長

要支援2が多くなっているということは、恐らく早い段階から支援申請を受けて必要な人に支援が入っているということである。要介護1、2、3の人数が減ってきているのは恐らく早いうちから支援が入ることによって、介護度が進むことがないような仕組みができていないかと思う。

反対に要介護4、5が高いことについて分析はできてないのだが、今は後期高齢者率のほうが高くなっているので、そういう方々は一度介護が入ってしまうと進行度が大きくなっているのではないかというのが私の個人的な分析である。

○三浦委員長

ほかになれば、進行を交代する。

○肥後副委員長

三浦委員長。

○三浦委員長

認定率だが、この資料で平成30年度からのものが書かれていて、ずっと22%を超えている。これは普通に考えて高い数字だと思う。そもそも20%強という数字で推移していること自体、今現在どのように捉えているか。

○健康医療対策課長

浜田市は、そもそも健康寿命が低い。この要介護認定率の原因疾患の中にがんの発生というのもあるので、そもそも若いときから健康寿命をしっかり押さえることで認定率を下げていくのが本来あるべきところなのだろうが、浜田市はそれができてないために健康寿命も低く、認定率も高くなっている状況である。

○三浦委員長

課長の答弁によると、原因はここにあるだろうということが想定されていて、それに対して認定率を下げる努力というか、それに資する具体的な浜田市の事業は何が当たるか。この認定は広域で共有されていて、それぞれの認定率や介護予防事業は、江津市、浜田市の両市でそれぞれ作ってもらう仕組みになっていると思うが、浜田市ではどういった取組が課題に資するものとして位置付けられているか、改めて説明をお願いします。

○健康医療対策課長

浜田市で介護予防事業を進めているのは、一番は100歳体操を地域に広めることである。保健師等が100歳体操教室や介護予防教室、サロンに出掛けて100歳体操を普及しているところである。

○三浦委員長

その取組が先ほど言われた課題の解決に対して、どのようなプラスの影響を与えているのかという検証の状況はどうか。

○健康医療対策課長

現状、高齢化率は高齢者の年齢構成が上がっていく上で認定率は上がっていくこ

とになると思われるが、それを維持しているということは介護予防効果が表れているとは思っている。しかし、下げていかなければならないのが我々の使命でもあるので、介護予防については今後もしっかり取り組まなければいけない。

○肥後副委員長

進行を交代する。

○三浦委員長

この件についてはよろしいか。

(「はい」という声あり)

(3) 島根大学医学部医学科『地域枠』及び市内看護学校卒業生・入学生の状況について

○三浦委員長

地域医療担当課長。

○地域医療担当課長

(以下、資料を基に説明)

○三浦委員長

委員から質疑はあるか。

○串崎委員

浜田医療センター附属看護学校の定員40人で45人入っても問題ないのか。

○地域医療担当課長

高校と違い、定員を一定数オーバーするのは認められているので、許容範囲の増だと思う。

○串崎委員

対策やPR等をされたのか。

○地域医療担当課長

オープンスクールの参加者が多かったことや、パンフレットやホームページが刷新されて注目度が集まった。またそれが、若者のニーズに合った取組の仕方だったのではないかと思う。

○串崎委員

浜田市14名の卒業生がおられ就職状況が14名とあるが、これはイコールなのか。それとも、よそとの絡みもあるのか。

○地域医療担当課長

4月に調査した段階では、13名が医療センターで、1名はどこか市内の医療機関ではないかと推測している。

○三浦委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(4) 令和6年度浜田市国保診療所の医師体制について

○三浦委員長

地域医療担当課長。

○地域医療担当課長

(以下、資料を基に説明)

○三浦委員長

委員から質疑はあるか。

○川神委員

国保診療所と医療センターとの連携は今どういう状況か。

○地域医療担当課長

まず副院長の北条先生はもともと市に軸足を置いておられて医療センターに行かれたのだが、まだ隔週で波佐診療所の診療を行っている。逆に医療センターの総合診療医師の人数が不足しているため、上野先生がそちらに入られるなど相互で協力し合っている。

○柳楽委員

邊田先生の派遣は期間が決まっているのか。

○地域医療担当課長

邊田先生は自治医の卒業で、その枠で来ていただいているので任期は一応1年である。来年度も県と話し合っって引き続きということはあるかもしれないが、佐藤ご夫妻のようにずっといる先生ではない。引き続き医師確保に努めていきたい。

○串崎委員

なぜ波佐診療所の土曜日診療だけ第1・3なのか。合わせたほうが良い気がするが何か理由があるのか。

○地域医療担当課長

日程の決定時に同席していなかったため正確な理由は分からないが、土曜日診療は各診療所の先生が必ずその診療を行っているわけではないため、全部同じ週にしてしまうと埋めるのがなかなか難しいということで、ずらしているのではないかと思う。

○三浦委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(5) 令和6年度幼児教育・保育施設の変更点と未就学児童の状況について

○三浦委員長

子ども・子育て支援課長。

○子ども・子育て支援課長

(以下、資料を基に説明)

○三浦委員長

委員から質疑はあるか。

○布施委員

入所園児数が、保育園が増えて認定こども園が少なくなったという話があったが、どう分析されているか。

○子ども・子育て支援課長

保護者が働いている家庭が増えてきているのが、こういうところに出てきていると分析している。

○布施委員

定員割れや定員オーバーの極端な傾向は、今のところ市内にあるだろうか。

○子ども・子育て支援課長

定員よりかなり少ない園もある。そういう園は状況に応じて定員を下げることもある。また定員を超えている園も数園ある。園によって状況は様々である。

○布施委員

今、地域井戸端会へ出掛けているが、地域の子どもが少なくて園の経営もなかなか難しいと聞く。園の相談にしっかり乗って色々な施策をお願いしたい。定期的な意見交換はどのくらいの頻度で行われているか。

○子ども・子育て支援課長

園長、施設長との会議を年に3回程度行っており、代表者として意見を聞いている。また、ご相談があれば随時対応している。浜田幼児教育センターから各園を回っているときに現場の先生から相談を受けた際は、その内容を共有するようにしている。

○串崎委員

ながさわこども園はなぜ移行しなければならなかったのか。また、それぞれの違いは何か。

○子ども・子育て支援課長

保育所型認定こども園とは、もともと保育所の認可を持つ施設に幼稚園機能を取り入れたものとなる。幼保連携型というのは、幼稚園機能と保育所機能の両方を併せ持っており、施設と設備が一体的に設置運営されている施設である。学校としての教育と、児童福祉施設としての保育を一体的に行っているものとなる。

幼保連携型になるメリットとしては、教育施設として位置づけられることと、園側としては幼稚園教諭になるための教育実習を受けられるようになるので、生徒が実習を受けたことによって、その方が就職することに結び付く可能性が高くなるというメリットもある。

○三浦委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(6) 放課後児童クラブの入会状況について

○三浦委員長

子ども・子育て支援課長。

○子ども・子育て支援課長

(以下、資料を基に説明)

○三浦委員長

委員から質疑はあるか。

○串崎委員

直営を民営にするという市の方針だと思うが、まだ直営で残っているのはどこか。

○子ども・子育て支援課長

19クラブのうち、直営は9クラブある。資料の2番松原小、3、4、5番の石見小、7、8番の周布小、9番の長浜小、12、13番の三階小のクラブである。

○串崎委員

今回、弥栄が直営から民営になった。先日地域協議会でも話が出たが、直営を民営にするメリットや考えなどを聞かせてほしい。

○子ども・子育て支援課長

市の方針として、民間でできるところは民間でという流れがあり、これまでも少しずつ進めてきたが、直営は直営の良さがあると県から言われている。ただ、県内で直営の児童クラブを持っているのは浜田市のみである。今後も順次民営化を進めていく計画である。

○串崎委員

よそがやっているからやるのだということしか分からなかったのだが、民営化すれば良いことがあるのか。なぜするのかと聞かれたときに何と答えれば良いのか。

○子ども・子育て支援課長

民間で請け負ってもらえるところは助けてもらう。人員管理も委託先にお願いできるなど、行政側のメリットはあるかと思うが、あとは市の方針に従って進めている。

○串崎委員

分かったことにする。聞いてみれば、市でやれば人材の融通がなかなか難しいが、民間にすればスムーズに行くという話も少しあったような気がする。

もう1点、弥栄小学校は体育館の2階が児童クラブとなっている。ほかに2階の児童クラブはあるか。

○子ども・子育て支援課長

2階というのは校舎内にあるという意味か。

○串崎委員

旭町今市の児童クラブは1階にある。弥栄の場合は体育館の2階に上がっていかなければならない。ほかにも2階に上がらねばならない児童クラブがあるのか。

○子ども・子育て支援課長

校舎の2階や体育館の2階にあるところは多くある。原井、国府、石見の各小学校は2階にあるし、ほかにもある。

○串崎委員

お手洗いの利用時に1階に下りる必要がある。けがなどをして2階に上がるのが難しい状況も考えられる。1階で便利の良いほかのクラブを見ると、2階はどうなのかと考えるのだが、どう思っているか。

○子ども・子育て支援課長

色々な考え方はあるかと思うが、単独施設で学校から少し離れたところにあると移動時間が掛かる。校舎内や体育館の2階となると校舎内の移動で済むメリットもある。どこで子どもを預かるかはそれぞれの環境によるかとは思いますが、現在はそれぞれの良い場所を見つけて施設整備しているところである。

○串崎委員

今市のすばらしい施設を見れば、そういった施設のほうが良いと分かる。同じ浜田市の児童なので格差があってもいけない。難しいとは思いますが考えてもらいたい。

○柳楽委員

定員の半分以下のクラブが数か所ある。その場合、運営が厳しくなるといったことはないのか。

○子ども・子育て支援課長

人数が少なくなれば同じ部屋を広く使っておられる状況ではあると思うが、予算内で定められた支援員の人数はきちんと配置している。まだそこまで極端な状況には至ってない。

○肥後副委員長

進行を交代する。

○三浦委員長

放課後児童クラブの評価制度については、現状どのようになっているか。

○子ども・子育て支援課長

評価制度については現在資料を持ち合わせていないため、後ほど回答したい。

○三浦委員長

放課後児童クラブは、設置者による評価の努力義務が法律で定められていると思う。行政が運営する場合、施設や事業の評価をどのように行っているか。後ほど回答してもらいたい。

○肥後副委員長

進行を交代する。

○三浦委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(7) 1歳児に対する相談支援事業の実施について

○三浦委員長

子育て世代包括支援担当課長。

○子育て世代包括支援担当課長

(以下、資料を基に説明)

○三浦委員長

委員から質疑はあるか。

○串崎委員

この祝い品はいくらか。

○子育て世代包括支援担当課長

1本当たり税別240円となっている。

○串崎委員

もう少し高くても良いのではないかという感覚を受ける。アンケートの内容はどのようなものか。

○子育て世代包括支援担当課長

内容としては、子どもの発達状況を聞くいくつかの設問を準備している。伝い歩きをするか、大人の言う簡単な言葉が分かるか。また、育児や家事をサポートしてくれる人はいるか、困ったときに相談できる人はいるか、心配事はあるかといった設問をした上で、最終的には保健師等の面談を希望するかという設問を盛り込んでいる。

○柳楽委員

希望があれば面談や電話相談といった対応を考えておられるが、そもそも訪問して渡して直接状況を伺うという取組ができれば一番良いと思うのだが、なかなかそれは厳しいのか。

○子育て世代包括支援担当課長

子どもが1歳となると仕事を持っておられる方は復職されて、平日日中に時間を取ってもらえない、訪問がなかなかかなわないケースが多数生じてくると推測している。よって今回はアンケートを郵送し、皆の考えを聞かせていただく手法を取った。

○柳楽委員

状況として難しいということは分かった。直接相談を受け付ける機会は、定期健診などとして設けられているということによろしいか。

○子育て世代包括支援担当課長

おっしゃるとおり、乳児検診や1歳6か月検診、また妊娠8か月アンケートなども実施しているので、そういったところ。もしくは、すすくでは心の相談など色々な相談事業を実施しているので、そういったところで保護者の考えを聞かせてもらえる機会はあると思っている。

○肥後副委員長

郵送したアンケートには二次元コードが付いており、よくあるようにスマートフォンで読み取ってそのまま打ち込んで回答を得るのだろう。その回答は専用フォームで自動集計されるのか。

○子育て世代包括支援担当課長

自動集計される。昨日夕方5時現在で見てみたところ、5月10日に発送したにもかかわらず、すでに9件の回答をいただいていた。

○肥後副委員長

この方式でやると回答率が高いと思った。年齢の部分で世代別ではどうしても差が出るかもしれないが、低コストで集計も自動でやってくれるので、非常に優れたアンケート形式かと思う。

○三浦委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(8) 令和6年度浜田市国民健康保険料率について

○三浦委員長

保険年金課長。

○保険年金課長

(以下、資料を基に説明)

○三浦委員長

委員から質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

ここで暫時休憩したい。

[11 時 00 分 休憩]

[11 時 10 分 再開]

○三浦委員長

委員会を再開する。先ほどの放課後児童クラブの評価の件で説明いただけるとのことなのでお願いします。

○子ども・子育て支援課長

放課後児童クラブの自己評価に関してだが、市の条例において、自ら評価を行いその結果を公表しなければならないとの努力義務が定められている。現在、直営のクラブについては評価をやっていない状況であるが、委託している一部の園では第三者評価を実施しておられるところもあり、その報告を受けている。

○肥後副委員長

進行を交代する。

○三浦委員長

個人的には第三者評価を定期的に入れるのが、実態把握には良いのではないかとの考えを持っている。先ほど来、施設の状況がどうなのかなど別の委員からの質問もあったが、放課後児童クラブを設置している浜田市として、ここで子どもたちがどのように過ごすのかという考え方を持って設置するわけなので、それが実態としてどうなのかは見ていく必要がある。努力義務とはいえ、それはしっかり行う必要があるのではないかと考えるが、実態を聞くと違う状況のように思える。その点はどのように

していくなど考えがあれば伺いたい。

○子ども・子育て支援課長

委託先についても客観的な第三者評価を実際されているところもある。もしこれをされたら国の費用補助もあるので、今後も報告していただける形で、そういう事例があるという話をする機会を持ちたい。市も現状をしっかりと受け止めて、今後これを推進していけるような考えで検討したい。

○肥後副委員長

進行を交代する。

(9) (仮称)益田匹見風力発電事業に係る環境影響評価書の縦覧について

○三浦委員長

環境課長。

○環境課長

(以下、資料を基に説明)

○三浦委員長

委員から質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(10) 令和5年度ごみの排出量等について

○三浦委員長

環境課長。

○環境課長

(以下、資料を基に説明)

○三浦委員長

委員から質疑はあるか。

○串崎委員

減少したのは人口減少の影響かとも思う。何か対策や理由があるか。

○環境課長

言われるように人口減少も大きな理由になるが、やはり一人当たりの排出量が44グラム減ったのが大きな原因になろうかと思う。年間排出量に計算すると一人当たりの排出が16トンになるので、各家庭で減量に努めてもらっていると感じる。

○串崎委員

令和7年度の目標達成に向けた最後の文面に、引き続き正しいごみの分け方に取り組んでいく必要があると書かれている。何か新しい対策が別にあるのか。

○環境課長

リサイクル率を見ると、令和5年度は19.77%、参考で付けているが令和7年度の目標値は21.4%と掲げている。リサイクル率を達成するのはなかなか難しいが、昨年2月に浜田市本庁においては新たにリサイクルステーションを整備させてもらった。そ

れに伴ってリサイクル量が6トン増えた実績がある。各支所にも新たなステーションを整備して、リサイクル率向上に向けた取組をしたいとも考えている。

また、いくつかのまちづくりセンターにも試験的に置いて、リサイクル率が上がるような取組を引き続きしていきたいと検討している。

○肥後副委員長

進行を交代する。

○三浦委員長

ごみの排出量が減ったとのことだが、これはお金に換算するとどれくらいか。処理量が減るので、それだけコストが下がっているのか。リサイクル率の向上はごみ処理事業に関して、どのくらいのプラスを生んでいるのか。

○環境課長

浜田市の予算で言うと、ごみ収集運搬している業務委託がある。確かにごみの減量はしているが、回収する日数やルートには変更がない。今はガソリン代の高騰、人件費、また業者からは今の給料と人材を確保するのは難しいとの声ももらっている。ごみが減るからといって、経費節減につながるかということ今はつながっていない状況である。

○肥後副委員長

進行を交代する。

○川神委員

収集経費に関しては分かった。ごみが減ると施設の延命効果が出てくると思う。このくらいの削減によってどの程度施設が延命できるか。施設に対してどこまでダメージが少なくなるか。そのあたりは何らかの数値があるか。

○環境課長

可燃ごみについては広域でやっているのだから、令和5～7年の3か年でエコクリーンセンターについてはある程度改修して延命化されている。

浜田市の持っている施設として不燃ごみ処理場がある。これについては延命ではないが、毎年点検はしており機器が止まらないよう年度ごとに計画的な施設更新をしているので、延命化はできているものと考えている。

○三浦委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(11) 浜田市とTerra Charge 株式会社との持続可能な地域づくりに関する包括連携協定書の締結について

○三浦委員長

カーボンニュートラル推進室長。

○カーボンニュートラル推進室長

(以下、資料を基に説明)

○三浦委員長

委員から質疑はあるか。

○串崎委員

4番目に地域防災力の向上とあるが、この連携で地域防災力の向上につながるのか。

○カーボンニュートラル推進室長

電気自動車はある意味蓄電池の代わりになるので、電気自動車で被災地に行ってスマートフォンやラジオの充電はできる。そういった意味で地域防災力の向上である。

○串崎委員

今回21基、来年度60基やるとのことだが、弥栄支所4、ふるさと体験村2、杵束まちづくりセンター2とある。大体いつも弥栄は最後になるのだが、こう書いてあってうれしく思うが、金城がないのはなぜか。

○カーボンニュートラル推進室長

とりあえず本庁各部署と各支所に希望を聞いて、希望に沿った形で付けやすいところから付けるためにこうなった。金城にもぜひ付けたいのだが、金城支所が希望すれば実現すると思う。

○柳楽委員

クリーンエネルギー自動車の普及とカーシェアリングということもあるので、電気自動車を購入されるに当たっての補助をしている自治体もあるが、今のところは島根県もしていない状況がある。間違いなければ国が最大85万円程度の補助をしているが、より進めようとする市も補助も大事だと思う。そういった方向性はあるのか。

○カーボンニュートラル推進室長

言われるとおり、今のところ島根県も浜田市も補助はしていない。補助しているところはそれなりの考えがあり、地元自動車工場があったり地元企業にも貢献できたりといった観点も強いと思う。まだまだ電気自動車を普及するに当たっては充電器が至るところにないと、自宅だけの充電では難しい。価格も、補助があるとはいえ一般家庭にとっては高価なため、もう少し世の中の様子を見て、環境が段々と整備されれば補助金も考えていきたい。

○肥後副委員長

地域防災力の向上に一応付け加えるのであれば、スマートフォンの充電だけではなく、以前予算決算委員会の際に確かホンダだと思うが、同じように連携協定を結んで、V2Hの簡易版、移動できるようなタイプを使えば例えばまちづくりセンターに住民が避難してエアコンを利用したい場合、屋外コンセントを設置さえすれば、電気自動車のバッテリーから機器を使って1500ワット程度は供給できるので十分使える形にはなる。しかも動く蓄電池としてEV軽自動車でもバッテリー容量20キロワットで、蓄電池だけの値段とあまり変わらない。それが普通自動車になると40キロワット、60キロワットになる。

一つ付け加えるなら、これだけ普通充電設備が増えるのは大変良いことだと思うが、今までの一般家庭用の普通充電器と言われるものが3000ワット、EV軽自動車で

も充電に3時間以上掛かる。自宅なら良いが、例えば公共施設に3時間、充電のみの車がずっと停車しているというのは、ほかの利用者にとって不便になる。その辺の敷地等も加味して設置されるか、もしくは利用者のモラルを問う部分もあるとは思いますが、心配されるのはそこだと思う。急速充電器とは根本的に考え方が変わるのだが、その辺についてはいかがか。

○カーボンニュートラル推進室長

これはT e r r a C h a r g eから普通充電器を無償で付けるという話なので、急速充電という話はなかった。公共施設に付けて市民用に開放するものである。公用車の充電はまた別である。市民の車が2、3時間停車されても、今のところはこの基数で足りるかと思う。まだ浜田市内を走る電気自動車は少ないので、今のところそれほど需要はないと思う。

もう一つ、防災力の向上についてだが、電気自動車の電気を施設の電気として流すにはV2Hという変換機が付いている施設でなければならず、それが付いている公共施設は浜田市内にない。そういう環境整備も今後しなければいけない。

○肥後副委員長

それが付いてなくてもホンダの可搬型変換機を浜田市は連携協定で結んでいるので可能ではある。弥栄支所は四つとかなり数があって駐車場が広い。例えば草刈り機を使ってプロが1日中刈るのであればガソリンでないと足りないが、家の周りなど、ちょっとしたところならバッテリー式の草刈り機のほうが逆に普及が進んでおり、そういったものにも十分活用できる。その辺でカーボンニュートラル推進になるのではないかと思うが、いかがか。

○カーボンニュートラル推進室長

まだ草刈り機のことまでは考えていない。どういったように充電するか、プラグの問題もあるだろう。それは追々考えていきたい。

○三浦委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

金城支所から希望がなかったとのことだが、こういう連携協定は市全体で考えていくものではないかと思うので、一体感を持って進められるよう推進室のリーダーシップを期待したい。

(12) 本庁支所間におけるオンライン窓口の試験的導入について

○三浦委員長

総合窓口課長。

○総合窓口課長

(以下、資料を基に説明)

○三浦委員長

委員から質疑はあるか。

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(13) 令和6年度軽自動車税(種別割)の当初賦課状況等について

○三浦委員長

税務課長。

○税務課長

(以下、資料を基に説明)

○三浦委員長

委員から質疑はあるか。

○串崎委員

台数が減っている中、その他が27台増えているがこれはどういうものか。

○税務課長

農耕用作業車が9台、小型特殊自動車が18台である。

○串崎委員

13年経過したら課税が多くなるという話があったが、どれくらいになるのか。

○税務課長

4輪軽自動車の対象になっており、乗用営業用6,600円が旧税率、平成27年3月までに初度登録された車の税率、新税率6,900円というのが平成27年4月以降に登録された車、そしてその隣の8,200円というのが13年経過した車の税率である。

○三浦委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(14) 令和6年度固定資産税の当初賦課状況等について

○三浦委員長

資産税課長。

○資産税課長

(以下、資料を基に説明)

○三浦委員長

委員から質疑はあるか。

○川神委員

相談内容はどのようなものだったか。

○資産税課長

土地の現況が課税と違うので現況を見てほしいという内容が多かった。ほかには、令和6年4月1日で相続登記の義務化が実施され、納税通知書にもパンフレットを同封した関係上、そういった相談内容が多かった。

○三浦委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(15) その他

(配布物)

・令和6年度子育て支援ガイド

○三浦委員長

配付物が1件ある。執行部から補足説明があるか。

(「なし」という声あり)

何か質問等あるか。

(「なし」という声あり)

ではここで執行部からの報告事項について、5月24日に開催される全員協議会で報告し説明いただくものを決定するため、執行部の意向をまず確認したい。

○健康福祉部長

報告項目はない。

○三浦委員長

執行部の意向は報告なしだが、各委員はそれで良いか。

(「異議なし」という声あり)

では報告なしということである。

2 その他

○三浦委員長

執行部から何かあるか。

(「なし」という声あり)

委員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

ではここで執行部は退席されて構わない。

(執行部退席)

3 取組課題について (委員間で協議)

○三浦委員長

現在、地域井戸端会が開催されているが、それぞれの地域の様子など共有する場を持ちたい。皆参加される中で当委員会として伺っている環境をテーマにした質問、あるいは地域の方からのリアクションなど、簡単で良いので報告いただけるか。

○肥後副委員長

先日5月11日土曜日の夕方6時半から、大麻まちづくりセンターで1回目の地域井戸端会を開催した。その中で、市の環境施策や環境に配慮した市民活動の在り方について

てということで、グループには分かれなかったが参加者と話した。

目の前が折居海岸なので、海岸の清掃活動が行われて年配者や高校生が参加してくれていると聞いた。驚いたのが、毎日市街地からごみ拾いに来られる方がいて、まちづくりセンターとしてもボランティア袋を外に出して声掛けしたり、感謝の言葉を掛けたりしている。それを見て地域住民も、ほかから来てもらえるようにと一緒にボランティアしている。また、小中学校の児童生徒も環境学習の一環として来てくれるのだが、周布小学校、第三中学校からは距離があるので、なかなか思うように回数が増やせないのが課題だと言われた。また、漂着ごみやペット・プラスチックに限らず、燃えないごみ、燃えるごみが年々増えている中、そろそろ重機でも入れてテトラポットの間などに入ったごみを取らないと、あそこは瑞風が徐行して海岸線を乗客に見てもらおうスポットなのに、ごみがあっては地域の恥だと一生懸命回収されているのだが人力では難しいので、行政としても考えてほしいという声をいただいた。

○上野委員

一昨日、木田まちづくりセンターで地域井戸端会があった。環境に関わることは一つ、八戸川漁協には組合員が400人程度いる。水源地もあり川を下れば海までつながっているとのことで、組合員が川の清掃を何度も行ったとのことだった。昨年、三隅の黒沢まちづくりセンターへ行ったときにも、漁師が草刈りに来てくれるのだと、海とのつながりをすごく大事にしておられた。八戸川漁協の組合長も川を大事にしていると言われた。ちょうど議員側にも漁協関係の議員がいたので、そのようなことは全然知らなかったが、今後そのようなつながりを持つとうということをととても熱心に言われたので、これは良い形になるのではないかと思った。今後話合いを持つとうと決めたので、またやっていきたい。

○布施委員

私は2か所の会場へ行った。小国の高齢者が言われた環境問題だが、樹木の剪定を人にやってもらった際に庭先でその樹木を燃やしたところ、警察が来て注意を受けた。今までは田んぼなどで草を燃やしていたのに、なぜこれがいけないのかと。私からは、野山の草などを燃やすのは推進しないこと、昔からの慣例で燃やしているところもあるが、基本的にはごみとして出してもらいたいことなどを話して納得してもらった。

もう一つ、現在エコクリーンセンターが2基あるうちの1基を改修中であるため、近隣市町村はなるべく燃えるごみを出さないようにと市報に載っていたが、なぜそうしていくか、もう少し分かりやすい説明が必要なのではないかと言われた。

○串崎委員

私はまだ石見まちづくりセンターにしか行ってないが、下水道の話が出た。今下水道工事をやっており、接続率60、70%を目指されているが、下水道から自宅まで引く自己負担はどうにかならないのか。年を取っているから接続しないという話も聞くがどうにかならないか、という話だった。部長にその話を伝えると、少し検討するという前向きな言葉をもらった。

○三浦委員長

私は一昨日、三隅まちづくりセンターに参加した。土地柄もあるのだと思うが、三隅の火力発電所のことに触れて、風力や太陽光などの再生可能エネルギーの推進は大事だが、特に太陽光は老朽化したパネルの処分なども問題になるし、再生可能エネルギーが完全なわけではない。地元火力発電所という大きな施設があり、雇用も含めて地域にとっては非常に重要だと。ただ、世界的・社会的な環境問題の動きの中で気になるところもあると。地域経済に与える発電所の影響が色々な面で大きいので、そういうところは気になっているという意見をいただいた。

また意見をまとめていきたい。引き続きよろしく願います。

○布施委員

言い忘れていたが、これも小国の方が言われた。市長が推進される子ども子育て支援は色々あるが、市長が掲げられている施策と実際に住民が思う施策が本当にマッチしているのだろうか。確かに良いこともやっているが、当事者は知っていても周りのサポートする方がそういう事業の存在を知らない。良い事業を浜田市が進めるのであれば、サポートする方も家族を交えてもっと広報すべきだと言われた。

○三浦委員長

環境のことはもちろんだが、医療や福祉など所管する部分で意見が出てくれば、それもまた共有していきたい。よろしく願います。

その他、委員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

では、今後の日程を確認したい。まず委員会は6月17日月曜日、全員協議会終了後から第2委員会室で開催する。それと国保診療所の先生との意見交換会が5月21日の10時からあるので、こちらも忘れず参加してほしい。

では、以上で福祉環境委員会を終了する。

[11 時 58 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

福祉環境委員会委員長 三 浦 大 紀